

松江キャンパス ニュース

The University of
Shimane Junior College

2012
vol. 5

地域にあって
輝く大学を目指して



マスコットキャラクター
オロチン

あいさつ

大学と認証評価

島根県立大学短期大学部
副学長

山下 由紀恵

平成23年4月から、前任者高橋憲二教授の後を引き継ぎ、松江キャンパス副学長を務めることとなりました。任期二年の在任中、皆さんどうぞよろしくお願いいいたします。

平成23年度と24年度は、公立大学法人島根県立大学にとって第1次中期計画6年間の最後の5年目6年目にあたり、次の中期計画に向けた、いわば転換期、踊り場のような段階にあたります。この二年の在任中には、過去の松江キャンパスの実績について、十分に自己点検・自己評価を重ねて皆で共通認識を持ち、さらに地域貢献できるよう、広く地域の皆さんの声を聞きながら、次のステップについてロードマップを策定していきたいと考えています。平成23年度には、その自己点検のちょうどよい機会として、島根県立大学短期大学部の「認証評価」が行われました。大学の自己点検・自己評価は、どのように行われるのか、すこしご説明しましょう。

何でも「評価」流行りの昨今ですが、現在、全国の大学に「認証評価制度」が導入されています。「大学等の質を保証する」、「評価結果が公表されることにより、大学等が社会による評価を受ける」、「評価結果を踏まえて大学等が自ら改善を図る」等を目的に平成16年4月から導入された制度で、国公私全ての大学、短期大学、高等専門学校が、7年に一度、文部科学大臣の認証を受けた評価機関（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けることになっています。評価の内容は、大学設置基準、短期大学設置基準に照らし合わせた、過去7年間の大学の教育研究、組織運営および施設設備の総合的な適格性です。評価する側の委員は、全国から選ばれた大学の現役教員等で、同じ立場の大学同士で見た客観的な評価が、認証評価基準を踏まえてシビアに行われます。

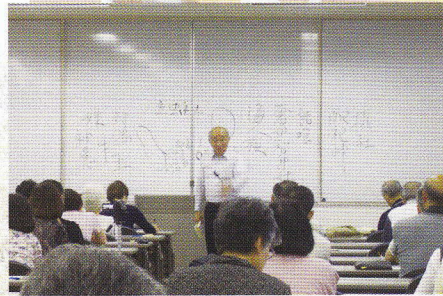
評価対象期間の最後の一年は、大学の「自己点検評価報告書」の書類審査と実地調査に費やされます。書類審査のための「自己点検評価報告書」は、6年目の最後に提出されます。評価する側の委員メンバーは、当然、実地調査までわかりません。実質5年間の実績と6年目の自己点検作業が、評価内容について最も重要な鍵を握っているといえます。このキャンパス・ニュースが印刷される頃には、本学が評価を依頼した「(財)大学基準協会」から評価結果が公表されていると思いますが、本学の場合は島根県立大学短期大学部になったのが平成19年度からですから、実質、平成19年度から21年度までの3年間の活動実績が、問われることになっています。ここ2~3年間の他の公立短期大学への「(財)大学基準協会」の認証評価では、だいたい「助言」が平均して五つ程度、「長所」が一つないしは二つ程度、指摘されているようです。実地調査も終えた今、本学に対してどのような指摘と提言があるかと、最終評価を静かに待っている状況です。同じ大学同士で見た時に、本学の外から見た姿は果たしてどのように映っているのか、今後の礎としての貴重なご意見が伺えるものと思います。

今年度一年間の、認証評価機関との文書での質疑応答、大学の姿を自己点検・自己評価し、外部に対して客観的な基準に基づき説明・報告するという作業そのものは、大変な労力を要する作業であったというのが実感ですが、10月に行われた実地調査では、こちらが資料で説明しつづせなかった部分を、評価者が多く質疑応答で解明してくださり、最後の口頭講評で「学生がすばらしい」といってくださったことで、全ての労苦が報われた思いでした。評価を受けるという作業の中で、自ら気づいた大学の問題点も多分にありましたが、まずは、地域と一体化した本学独特の交流型教育の中で育ち、外部評価者に対して生き生きと大学生活を語ってくれた学生たちに報いるためにも、今回の認証評価作業で浮かび上がってきた松江キャンパスの良質な教育の姿を、今後はもっと積極的に「見える形」にして記録し、表現していかなければならないと考えています。平成24年3月の最終評価をもとに、松江キャンパスの現在までの客観的な姿について共通認識を固め、次のロードマップ策定に向けた真摯な話し合いを開始したいと考えています。

公開講座

「出雲神話翻訳研究会」

この講座は、『古事記』の出雲神話説話を再考・講読し、英語訳を試み、これからの若い世代にも利用しやすいかたちで提供することを目指して、島根県「古事記1300年」事業にも合わせて開講されました。特色は先ずなんと言っても、前半の藤岡大拙先生(荒神谷博物館館長、元島根県立島根女子短期大学学長)による講読です。物語の背景の風景心情を知り尽くした、また地の利・出雲人であることの利を活かした研究者ならではの、先生の解釈・講釈の面白さには、その場で聞いた者だけが味わえる醍醐味があります。講座の後半は英語担当者による試訳の披露と、その「苦労話」を進めました。藤岡講釈とその断トツの面白さをなんとか翻訳に盛り込みつつ、すでに市販された現代語訳・英語訳がある中で、外国のひとや若いひとにもアピールするような特色ある翻訳を目指すという、オロチ退治が出雲神話の翻訳かといえる難事に、担当者は目下ひきつづき立ち向かっているところであります。(講座も来年に続きます。)



「心と音楽」

公開講座「心と音楽」は全3回のシリーズで開催されました。

第1回では日本音楽療法学会山陰支部長の武田千代美氏による「音楽療法のお話」として、音楽療法の現場でのエピソードを交えながら、実際に音楽療法で使用する色々な楽器を使って馴染みの曲を受講者と共に合奏するなど、笑顔溢れるリフレッシュのひとときを過ごしました。

第2回は島根県立大学総合政策学部総合政策学科の川中淳子准教授による「石見神楽と心理臨床」と題して、石見神楽の派手な衣装、早いテンポ、新しいものを取り入れながら発展する様子は石見人らしいと言われる。

石見神楽は、石見地方の地域性の象徴であり心の表現となっており、舞や音楽は感情表現を促すといった内容をお話し頂きました。

第3回は日本音楽療法学会音楽療法士の白川千春氏による「唱歌、わらべうたと音楽療法」と題し、前半は「わらべうた」と「唱歌」を中心としたお話、後半は日頃から演奏活動を共にされておられる竹下千歳氏とのミニコンサートを用意して頂き、最後に受講生の皆さんと共に「ふるさと」を合唱するなど、美しく懐かしい旋律に心温まる午後となりました。



「健康栄養講座:楽しいダイエット教室」

この講座は、健康栄養講座開講以来の受講者の皆様からの要望で、つらく厳しい「ダイエット」事情に対して、健康栄養学科教員がそれぞれの専門的な立場から「楽しくダイエットできないのか?」「理想の身体とは何か?」などの疑問に答えるために行いました。

そもそも、理想の身体とはどんな身体なのかに始まり、食事や運動も行うタイミングが大切で、身体のリズムに合わせた効果的な方法があること、注目されているダイエット食品の功罪などについて紹介しました。また、家でできるヘルシーメニュー(写真)として、地元の食材を使ったしじみ汁、豚肉のロール照り焼き、もやしと胡瓜と海藻の胡麻酢和え、銀餡をたっぷりかけた茶碗蒸しなどを調理実習で作っていただきました。「ダイエットに対する考え方が変わった」「家に帰っても料理を工夫したい」など、内容や今後の企画に期待する感想を数多くいただきました。健康栄養講座は、地域の皆様の要望に応え、平成24年度も引き続き開講する予定です。



新任教職員挨拶



事務室長
樋野 輝男

平成23年4月、松江キャンパス事務室長に就任いたしました。島根県庁や旧温泉津町役場での行政経験を生かしながら、本キャンパスはもとより、島根県立大学の発展のために努力したいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

着任して以来大変感心していることは、学生の皆さんがいつもさわやかに挨拶をしてくれることであり、心地よさを感じています。また、東日本大震災後に行った現地でのボランティア活動や募金活動に頼もしさと優しさを感じました。

ところで、私は、以前旧温泉津町で世界遺産登録や町並み保存を核とした地域づくりに取り組みました。その時、地域は様々な力に支えられていることを改めて実感しました。松江キャンパスの特色であり各分野で積極的に進めている地域連携は、まさに地域を支える力であり、地域づくりの一翼を担っているものであると共感しています。

私は、この大切な役割を果たしている松江キャンパスの存在意義がさらに高まるよう、ささやかでも支える力になりたいと思っています。



総合文化学科
講師
石井 大輔

総合文化学科に2011年4月に着任しました、石井と申します。図書館司書・図書館情報学に関する科目を担当しています。よろしくお願いいたします。

専門は、図書館情報学および著作権法制度です。なかでも、著作権の管理と利用について研究しています。図書館にどう関係するのか、疑問に思われるかもしれません。誰かが書いた小説や詩などの著作物は作者の財産であり、一定の期間であれば著作権を主張できるの

で、他者が好き勝手にその作品を利用することはできません。でも、一方では著作物は人類の財産でもあり、人類が積み重ねている歴史そのものです。それらは利用されてこそ意味をもちます。著作物を利用して内容に触れることで、時空を越えて作者と出会い、知識を共有することができるからです。その人類の財産と歴史を、責任を持って収集、組織、保存して人々の利

用に資するのが図書館の役割であり、そこでは著作権とのバランスが重要だと考えています。

出身は千葉です。幼少のころより関東で過ごしていましたが、ご縁があって松江に参りました。初めての土地に住むというのはとても刺激的です。さいきんでは、とくに人の縁は面白いと感じています。これまでも転換点には出会いがあったと思います。学生のみなさんにも、人であれ本であれ、さまざまな出会いを大切にしてもらいたいと思います。

南ユタ大学本学訪問

総合文化学科 講師 ラング・クリス

平成23年5月25日、アメリカの南ユタ大学から学生と教員合わせて14名が松江キャンパスを訪問し、国際交流を行いました。

朝、キャンパスに到着後、学生たちはレセプションで和菓子を楽しみ、日本の伝統的な遊びであるコマやけん玉にも挑戦しました。次に、2人ずつペアになって、総合文化学科1年生の授業であるチュートリアルに参加するため、各ゼミを訪問しました。チュートリアルでは、各ゼミ独自の交流が行われ、英語で自己紹介のあと、折り紙で鶴を折ってメッセージを書くゼミもありました。

午後からは、総合文化学科2年生10名らと共に、松江市内観光に出かけました。松江城の天守閣まで登り、宍道湖の素晴らしい眺めを楽しんだり、堀川めぐりを満喫したりしました。

この交流は、南ユタ大学の学生にとってはもちろん、本学の学生にとっても貴重な国際交流の場となり、お互いに忘れられない経験となりました。



管理課の業務

○管理課とは

管理棟の入口正面の部屋で、平成23年度は、事務室長のもとに、管理課は、課長、予算担当、研究費担当、職員関係事務担当、授業料担当、情報担当、施設・設備担当、認証評価担当、後援会担当の9人(男4人、女5人)で仕事を受け持っています。

本学学生は、

- 本学からのメールが、携帯に転送されない場合
 - 授業料に関する相談がある時
 - 施設利用を申し込む時
 - クラブ助成に関する手続き
 - 自家用車等で通学する時
- などに訪ねてください。



教務学生課

教務学生課の主な業務は、各種証明書の発行、履修登録、入試事務、就職支援、保健室の運営、寮の食事等の管理など、入学から就職・卒業まで、大学生活を送るうえで必要な事務全般を担当していますので、学生の皆さんは一度は来られたことがあると思います。

窓口業務は平日の8:30~17:30まで、昼休み時間も交代で勤務しています。休日出勤していると、申請等に來られる方もありますが、土日祝は窓口はお休みです。

所属の職員は男性3名、女性6名で、キャリアアドバイザーや寮の管理人も教務学生課に所属しています。

事務室職員に対して「杓子定規で冷たい」「怖い」というイメージを持たれる方もありますが、できるだけソフトな対応を心がけておりますので、気軽にお越しください。



図書館の仕事

図書館の仕事と言えば、本の貸し出し・返却が主な仕事だと思われるかもしれませんが、その他にもけっこう仕事がありますのでそれらを少し紹介します。

日常業務としては、カウンター業務の他に「図書・雑誌」の登録・整理、「紀要・逐次刊行物・郷土出版物」の収集・管理、新聞記事(9紙)のチェック、「他大学・他図書館」との相互利用(前年度、約300件)等を行っています。

毎月1回行っていることとしては、企画展示・司書のオススメ本・本学図書館関係新聞記事の更新です。それに伴うHPの更新も図書館で行っています。

今年度は、寄贈本が特に多く、すでにトータルで段ボール約30箱分の本を寄贈していただきました。それらも毎日少しずつではありますが、処理をしているところです。

また、業務とは別に図書館の運営や予算について話し合う「メディア・図書館委員会」があり、そこでは紀要の発行やこの松江キャンパスニュースの発行を行います。





CAMPUS LIFE

海外語学研修

守谷優希 (総合文化学科1年)

私は、2011年の夏、サマープログラムに参加し、ワシントン州エレンズバーグにある、セントラル・ワシントン大学に行きました。期間は約2週間で、その間、大学で英語を教えていただいたり、エレンズバーグの街を観光したりしました。後半は乗馬やマリナーズ観戦、シアトル観光などにも行き、ハードなスケジュールではありましたが、とても貴重な体験をたくさんすることができました。英語を教えていただいたNiini先生だけでなく、学生ボランティアの方や学長さんなど、現地の方がたとの交流もでき、とても有意義な研修でした。

初めは言語や文化の違いを不安に思ったりもしましたが、生活してみると毎日が充実していて、帰るのが惜しくなるほどでした。母国とは違う文化、ネイティブの英語に触れられるまたとない機会ですので、興味のある方はぜひ参加してほしいと思います。



サークル・クラブ紹介

・演劇部

演劇部顧問 小玉容子

年1~2回の公演を目指して活動しています。平成23年度はクリスマス公演で、ちょっと悲しく胸にジーンとくる淡い初恋物語でした。経験者は数名で、ほとんど初心者の集まりですが、舞台創りのおもしろさに取りつかれています。



・美術部

美術部顧問 福井一尊

美術部では、油絵の具や水彩絵の具を用いた絵画作品や、焼き物の制作に取り組んでいます。また夏休みには隠岐の島や県外で作品制作合宿を実施し、秋の学園祭で作品発表を行います。



・華道部

華道部部长 長野友美 (健康栄養学科2年)

みなさんはお花が好きですか？ 私たち華道部は、お花が大好きな学生たちの集まりで明るく楽しく活動しています。講師に池坊の山根かねみ先生を招き、1年生6人・2年生4人の計10人を週2回ご指導いただいております。毎年学園祭では大小2種類の花器を用いて1人2点ずつ生け花の作品を展示しています。お花は角度ひとつで表情がかなり変わるため、上手に生けるのが難しいです。また、一晩経つと花が動くので、前日に生けても次の日は表情が違っており、調整しなくてはなりません。山根先生の熱心な指導を受けながら私たちはそれを乗り越え、今年度も無事に終わることができました。



学園祭

